

令和5年度 学びシュラン® (自己評価・学校関係者評価報告書)

報告書作成日 2024年6月5日

基礎情報内容	実施園情報
法人名	学校法人小寺学園
理事長名	秦賢志
園名	幼保連携型認定こども園はまようちえん / 企業主導型保育事業はまようちえんナーサリールーム
園長名	小寺由起
担当者名	役職名: 教頭 氏名: 樋口詩菜
住所	〒661-0967 兵庫県尼崎市浜 2-2-13
電話番号	06-6499-4919
FAX 番号	06-6499-4931
メールアドレス	infoa@hama.ed.jp
園児数	211人
学級数と人数	認定こども園ようちえん 7学級 168人 ナーサリー 31人 / ナーサリールーム 12人
教職員数	59人

本園の教育理念	わたしになる。ぼくになる。 つよく。かしこく。うつくしく。おもしろく。
本園の教育目標	たくましく生活できる子ども・みんなと仲良く遊べる子ども・心豊かな創造性を育てる
今年度重点目標	① THE 広報部 (はまよういいところアピール) ~ season2 ~
	②地域コミュニティを育むサードプレイス新設「はまようつながるぱーく」第1期
	③保育実践の研究発表による質向上
	④キンダーカウンセラー制度を生かした特別支援教育の充実

学校関係者評価委員	島田一郎 (浜南町内会 会長)、島田佐知子 (浜小地域学校コーディネーター)、 清家祐子 (卒園児保護者)、染矢志保 (在園児保護者)、 田村幸夫 (浜小学校 校長)、羽下大信 (キンダーカウンセラー)、 南川貴子 (潮小学校 校長)、椋田善之 (関西国際大学 准教授) ※順不同・敬称略
学校関係者評価委員会	開催日: 令和6年5月31日 開催場所: ホテル ヴィスキオ

評価 ASSESSMENT 本年度の総合的な自己評価結果

令和5年度の園のテーマを「Starting Emotion 人生の始まりにワクワクする体験を」とし、広報部によるSNSでの日常的な保育の発信だけでなく、自園の保育について発表する機会に積極的に挑戦した。広報部入りした1年目スタッフが、「楽しかったので来年も広報部を続けたい」と話したり、公開保育の分科会ファシリテーター役の保育者が「自園スタッフに負けないくらい他園のスタッフの方が積極的に発言して下さったことが嬉しかった」と語ったりするなど、メンバー一人ひとりが自分の強みを活かし、自園の魅力発信を楽しみながら行うことができた。また、子育て支援カウンセラー事業の自園の取り組みを教頭が大阪府私立幼稚園連盟の研修会で実践報告し、その重要性について再確認する機会を得ることもできた。

その一方、今年度ミドルクラス保育者を含む8名の退職者が出たが、広報部がリクルート活動に奮闘し、来年度に向け保育スタッフ6名、事務スタッフ3名の過去最多の新規採用者を受け入れることにつながった。

ソニー幼児教育支援プログラムの保育実践論文では、企画趣旨を理解しきれておらず、SNS投稿では閲覧者にとって効果的な投稿となっているかの分析が不十分であるなど、取り組みについて他者視点で捉えることの難しさが浮き彫りになった。また、地域コミュニティを育むサードプレイスとして新設した「つながるぱーく」では、はまようの家族をはじめ地域の子育て中の家族に日々利用されており、町内会からはさまざまに賛辞をいただく一方、隣接する文化住宅に住む複数の住民からの理解が得られず、その対応が継続している。

課題 ISSUE 自己評価を受けて浮かび上がってきた課題

自園の保育の魅力を外に発信していくことに積極的に挑戦することは園の文化として醸成されているものの、ソニーやSNS投稿など確実な成果につながっていない取り組みもあるため、他者視点での調査や分析を進めながら発信を継続していく。

「つながるぱーく」の問題には真摯に対応しながらも、継続して地域の方に活用いただけるよう積極的に開いていきたい。

関係者評価 Review 学校関係者による講評

学校関係者 代表 椋田善之（関西国際大学 准教授）

今年度の自己評価結果や報告書からも、はまようちえんの質の高さが伺えた。しかし、ナーサリーの結果とようちえんの結果を比較するとようちえんの方が「とてもそう思う」の回答数が少ない傾向にあった。ようちえんの保護者への発信や園文化が与えるなんらかの要因があるのかもしれないため、今後検証が必要ではないかと考える。

自己評価については、「①THE 広報部（はまよういいところアピール）～season2～」 「②地域コミュニティを育むサードプレイス新設」 「③保育実践の研究発表による質向上」 「④キンダーカウンセラー制度（私立幼稚園子育て支援カウンセラー事業）を生かした特別支援教育の充実」という4つのプロジェクトが立ち上がり、年間を通してそれぞれのプロジェクトが活発に遂行されたことがわかった。

中でも、「②地域コミュニティを育むサードプレイス新設」においては、つながるパークを開設したことで新たな問題が出てきたことによって、活動が制限されることもあった。しかし、その問題に対してようちえんは真摯に向き合い、改善に向けた努力が行われていた。この問題はようちえんだけでなく、地域の問題として取り上げていくべきことであり、地域住民や市役所の協力を仰ぎながら進めていく必要があるという議論が行われた。評価としては取り組みの進捗が遅くなったことを受けて低く設定されていたが、地域のコミュニティを育む場を作り出したことによる結果であるため、高く評価されるべき内容でもあると考える。

また、THE 広報部（はまよういいところアピール）～season2～のプロジェクトについても個人的には非常に貢献度の高いプロジェクトだと捉えている。なぜなら、はまようちえんは全国的に見ても非常に質の高い保育を展開されている園であり、他園やこれから就職を希望する学生にとって配信されている内容は非常に重要な参考資料になるからである。さらに、主体的な子どもの遊びが展開されているため、世間の幼児教育への理解を促進することのできる材料にもなると考える。

これからも、はまようちえんは注目される園であることは間違いのないため、今後も継続的にこのような情報発信に力を入れてほしい。

今回は子どもの育ちに対する重点目標は見られなかった。これは、普段から保育計画や個人の目標や計画で取り上げて当たり前になっていることがこのような結果になっていると推測できる。これからも子どもたちがいきいきするプロジェクトが出てくることを期待している。

今年度の重点目標	① THE 広報部（はまよういいところアピール）～ season2 ～	評価グレード
テーマ	HAMAYOU Self Branding	自己評価 4/5

計画 PLAN どんな目的・目標を持って、いつ、どこで、誰が、何をしようとしたか	
<p>【目的】</p> <p>①はまようファンづくり！</p> <p>②広報部員の、はまようスタッフとしての誇り（Profaith）が深まる。</p> <p>【目標】</p> <p>自園のいいところをアピールする量を増やした前年度に続き、今年度は発信の質を向上させることにより、外部の人がはまようちえんのいいところを発見し、見たい（SNS 閲覧数）、知りたい（SNS 検索数）、行ってみたい（園見学者数）人が増えることを目指す。</p> <p>【コンセプト】</p> <p>good sPiral , big Relation</p> <p>【プロジェクトメンバー】</p> <p>リーダー：樋口詩菜</p> <p>サブリーダー：岡、樋口知華</p> <p>部員：大野、原田、松尾、渡部、長尾、荒嘉（新）、長谷川（新）、堀江（新）</p> <p>【どのように】</p> <p>リクルート、動画編集、SNS の3チームにわかれて学期に1回以上のミーティングを実施。</p> <p>はまよう保育のPR方法の質向上に向けてアップデートを行う。</p>	
実施内容 DO どのように実施したか	
<p>チームごとの実施内容</p> <p># リクルート 令和6年度採用に向けて「OPENHAMAYOU( 就活生向け園見学会 )」3回実施。(2023/3/7,5/9,9/6)</p> <p># 動画編集 はまようの1日(アップデート), 公開保育ふりかえり movie, ナーサリー保育参加動画を作成。</p> <p># SNS アップ時のチェック方法など基本的なルールの確立。ストーリー活用方法の検討。</p>	
ふりかえり CHECK できたこと・できなかったこと	
<p>&lt;できたこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Instagram のフォロワー数が昨年度末 300 名から 600 名となり、着実に増加している。</li> <li>保護者向けの案内としては初のナーサリー保育参加動画を作成し、動画を活用する機会を広げた。</li> <li>今年度末、退職者が多くでたものの、リクルートチームの活躍で新規採用者を9名確保することができた。</li> </ul> <p>&lt;できなかったこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS の分析が不十分。広告を出した時の実際の効果や、どのような投稿が閲覧数が多いのか、閲覧数が多い世代や性別など様々な角度から分析することで、より閲覧者のニーズに応じた効果的な投稿につなげたい。</li> </ul>	
対策 ACTION 今後の取り組み	
<p>リクルート、動画編集、SNS に関して、2年間かけて発信方法の基礎づくりを行った。作り上げてきたことの質を落とさず継続更新することができるように、次年度は、担当者を中心に年間計画書や実施ガイドラインを作成していく。</p> <p>また次年度は、今年度取り組むことができなかった園内広報とホームページのアップデートを主なテーマに挙げ、広報活動の幅を広げていく。</p>	

今年度の重点目標	②地域コミュニティを育むサードプレイス新設	評価グレード
テーマ	地域とつながる公園「はまようつながるぱーく」第1期	自己評価
		2/5

計画 PLAN どんな目的・目標を持って、いつ、どこで、誰が、何をしようとしたか

【WHY】

はまよりのポリシーのひとつ「おたがいさま系コミュニティ」づくり、「生涯共育の場づくり」の具現化として、奥庭を地域にひらく公園として開設する。地域の親子や住人が安心安全にゆったり過ごし、まちのなかでゆるやかにつながり育まれていくおたがいさま系コミュニティの場として存在し、利用者がこのまちで子育てすることに対する喜びと豊かさを実感することを目的とする。

【HOW】

芝生広場、手押しポンプ、砂場、小川を第1期で造成し、来年度第2期には茶室「佳通庵」と茶庭を建立する。公園は、毎日朝から夕方まで開園。管理人は常駐しない。利用者はルールに則って自由に利用する。在園児は「つながるぱーく隊」を編成し、担当保育者とともに公園の整備管理をする。その他保育の場としてさまざまに活用していく。

【プロジェクトメンバー】

プロジェクト総指揮：秦

企画チーム：秦（リーダー）、小寺由起

建築チーム：寺地（設計監理）、岩田建設（建築施工）

管理チーム：平田（リーダー）、樋口知華、阪神園芸、大和肥料

保育チーム：大野（リーダー）

実施内容 DO どのように実施したか

2023/7/16(日)「まちのOH! ひろめ会」オープン記念パーティを実施し53名の方に来場いただく。

7/17(月・祝)より本オープン。地域の小中学生が毎日訪れている。

○つながるパークおたすけまん(在園児家族・スタッフ)担当：小寺由起、樋口知華、平田

10月からボランティア活動を始動。5家族と1名の清掃スタッフが参加し、芝生や植栽の水やり、パークのOPEN・CLOSE作業を中心に活動を行う。

○つながるぱーく隊(年長児)担当：大野

ゴミ拾い、雑草抜き、小川の石洗いを朝の園庭遊びで実施。

ふりかえり CHECK できたこと・できなかったこと

オープン以来、はまよりの家族をはじめ地域の子育て中の家族に日々利用されている。町内会からはさまざまに賛辞をいただく一方、隣接する文化住宅に住む複数の住民から大人の話し声や子どもの遊ぶ声がうるさいとクレームが幾度となく入る。子ども達がぱーくの清掃をする「つながるぱーく隊」の活動もクレームに対応するかたちでやむを得ず中止した。市や警察にも通報があり、そのたびに当園が改善せねばならない材料はないことを確認し、子どもの声も「騒音」には当たらないと指摘を受け、クレーム住民に対しての訴えは退けられている。町内会の島田会長はじめ役員の方、市長から命を受けた市役所地域課の役人、文化住宅の不動産会社代表、大家と機会を分けて対策を検討し、クレーム当事者とも面談を数度持ったが、和解にはほど遠く、2名の文化住宅住民の居室内サッシュには防音のための内窓を取り付けることとなった。クレーム当事者は日中在宅しているため、少しの音声も許容できない様子で怒りが収まらない。

対策 ACTION 今後の取り組み

2居宅には防音サッシュの工事が入ったが、効果はまだわからない。これ以上の支出は避けたいが、今後どのような対策を立てることが必要になってくるかは、相手の出方次第である。

今年度の重点目標	③保育実践の研究発表による質向上	評価グレード
テーマ	自園の保育についてロジカルに語ろう！	自己評価 4/5

計画 PLAN	どんな目的・目標を持って、いつ、どこで、誰が、何をしようとしたか
【目的】	外部に向け、自園の保育について、外部の方に伝わりやすい言葉で（ロジカルに）語ることを通して保育の質向上につなげる。
【目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロジカルに自園の保育を語るスキルの向上。</li> <li>・自園の良さや課題を俯瞰的に捉え、再確認する。</li> </ul>
実施内容 DO	どのように実施したか
	<p><b>2023年度ソニー幼児教育支援プログラム 保育実践論文 「科学する心を育てる」～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～</b></p> <p>【いつ】2023年8月</p> <p>【誰が】樋口詩菜、岡、小川</p> <p>【発表形式】論文</p> <p>【テーマ】「わかった！なるほど！ひらめいた！ファンタジーの世界の中での対話からうまれる想像力・思考力・探究心」</p> <p><b>全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催 第14回 幼児教育実践学会</b></p> <p>【いつ】2023/8/18・19</p> <p>【誰が】大野、忠津、松尾</p> <p>【発表形式】ポスター</p> <p>【テーマ】自己評価システム「学びシュラン®」 ～園の自己評価へつながる個人のふりかえり（自己理解と他者理解）によるチーム力向上～</p> <p><b>自園主催 第1回 異年齢保育研究公開保育</b></p> <p>【いつ】2024/1/12</p> <p>【誰が】全スタッフ</p> <p>【発表形式】公開保育</p> <p>【テーマ】はまようアワー「シェアっていいとも！」園内研修ウキウキ WATCHING ♪</p>
ふりかえり CHECK	できたこと・できなかったこと
	<p>&lt;できたこと&gt;</p> <p>・園内研修をテーマに実施した自園主催の公開保育では、事後アンケートにおいて、「満足」と答えた割合が前年度79.1%であったのに対し、今年度は97%に増加。評価があがった具体的な要因として、分科会でやりとりが活発にできたこと、質問一つひとつに対してはまようスタッフが丁寧に返答していたことが理由としてあげられた。</p> <p>・自園独自の自己評価システム「学びシュラン®」のポスター発表では、これまで自ら参加者として自己評価を行ってきた現場スタッフが他園にその良さを語ることで、自己評価の意義を捉え直すきっかけとなった。</p> <p>&lt;できなかったこと&gt;</p> <p>・ソニー幼児教育支援プログラム論文投稿は入賞に至らなかった。ファンタジープロジェクトを題材としたことで、架空の世界と子どもの実生活との関連性や直接体験が見えづらいという講評をいただいた。企画趣旨を理解しきれていなかったことが要因であり、他園の論文などの研究が不足していた。</p>
対策 ACTION	今後の取り組み
	<p>公開保育、ポスター発表、論文発表と、自園の保育を発表する場に積極的に挑戦することができた。他園の先生に自らの保育を語りフィードバックをもらうことで、自園の良さや課題に気づくだけでなく、保育者が自園の保育をより好きになり、よりよくしていこうとする心が育まれていると実感している。現場保育者が自園の保育を語る機会をこれからも大切にしていきたい。</p>

今年度の重点目標	④キンダーカウンセラー制度（私立幼稚園子育て支援カウンセラー事業）を生かした特別支援教育の充実	評価グレード
テーマ	一人ひとりに合わせた個別の支援（関わり）について考えを深める。	自己評価
		5/5

計画 PLAN	どんな目的・目標を持って、いつ、どこで、誰が、何をしようとしたか
<p>【目的】臨床心理士の視点で、個に応じた関わりについてアドバイスいただき、一人ひとりに合わせた個別の支援（関わり）について考えを深める。</p> <p>【目標】現場の保育者が悩んでいる子どもへの関わりについて臨床心理士から具体的なアドバイスをいただき、解決への糸口を見出す。</p> <p>【いつ】月1回 9:00-14:00（年12回）</p> <p>【誰が】臨床心理士、小寺由起（園長）、担当者（大野・樋口詩菜（教頭））、対象児の担任。</p> <p>【どのように】臨床心理士による、保育観察と面談を通して、園児への関わりについて具体的なアドバイスをいただく。</p>	
実施内容 DO	どのように実施したか
<p>【1日の流れ】 9:00-14:00（5時間）</p> <p>&lt;午前&gt; 臨床心理士と担当で保育観察</p> <p>&lt;午後&gt; 臨床心理士、園長、担当者、対象児の担任でカンファレンス</p> <p>&lt;EMT&gt; ようちえん、ナーサリー各部門の保育スタッフに共有</p> <p>以上のカウンセリングを以下の日程で行う。（※前日に臨床心理士と担当で打ち合わせを実施）</p> <p>2023/4/25、5/22、6/13、7/18、8/24</p> <p>9/15、10/17、11/17、12/11、2024/1/11（2歳児あそび場まめっこの子ども対象）、2/22、3/12</p>	
ふりかえり CHECK	できたこと・できなかったこと
<p>&lt;できたこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援児として療育手帳や診断書のある園児、加配を必要とする園児だけでなく、担任が個別の関わりが必要を感じる子どもについて広く相談することを継続している。</li> <li>・臨床心理士の専門的な見地からのアドバイスをいただくことで、毎日共に過ごす自園の保育者から見える子どもの姿を異なる視点から捉える機会となり、子ども理解を深めることに繋がっている。</li> <li>・保護者と臨床心理士（カウンセラー）との直接面談の実施や、保護者理解、職員間連携など様々な問題を相談する機会として活用している。</li> <li>・担当の大野は、羽下先生からのアドバイスを直接聴くことで自分の見取りが広がり、学びが深まったことを実感することができた。</li> <li>・11月9日大阪府私立幼稚園連盟主催キンダーカウンセラーの活用研修会で、教頭が自園の実践を発表。臨床心理士がアドバイザー的に上から指導する立場ではなく、ともに自園の保育を支える協力スタッフであるという意識を持ち、フラットに語り合うことの大切さを再確認した。</li> </ul>	
対策 ACTION	今後の取り組み
<p>現場保育者が、臨床心理士の視点での子ども理解を深める機会を広めるために、令和6年度は、園児のカウンセリングだけでなく子ども理解を深める園内研修を実施したい。</p>	